

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報

1 基本情報		事業番号		0110/100570/02/00		事業の種類		4	
年度	19	事務事業名		連絡船運航管理事業		作成日	平成21年1月20日	重要度	4
予算事業名		連絡船運航管理事業		担当部課名	まちづくり推進室				
政策名		快適で魅力あるまちづくり							
施策名		公共交通		実施計画への記載		無	主要事業の指定		無
根拠法規及び関連法規		相生市連絡船条例							
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民							
	誰(何)を対象として	市街地から坪根地区、坪根地区から市街地へ行きたい市民及び坪根地区より通学する小中学生、幼稚園児							
	意図(どのような状態にしたいのか)	市街地と坪根地区との間を結ぶ生活交通網を維持する							

2 事業の概要 Do

実施の概要		市街地と坪根地区を結ぶ通学等の交通手段として運航				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	年間利用者数	人	5,695	6,225	5,250	5,300
	運行日数	日	361	362	340	336

3 投入資源

3 投入資源		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.150	0.135	90.0	0.170	125.9	0.150	88.2	
	臨時職員	0.005	0.005	100.0	0.050	#####	0.150	300.0	
支出内訳	人件費	2,302,065	1,886,980	82.0	2,345,843	124.3	2,390,201	101.9	
	事業費	5,881,267	5,898,000	100.3	5,790,442	98.2	5,847,000	101.0	
	合計	8,183,332	7,784,980	95.1	8,136,285	104.5	8,237,201	101.2	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他	415,960	459,600	110.5	490,270	106.7	484,600	98.8	
	一般財源	7,767,372	7,325,380	94.3	7,646,015	104.4	7,752,601	101.4	
	合計	8,183,332	7,784,980	95.1	8,136,285	104.5	8,237,201	101.2	

4 評価指標

【有効性】

指標名1		連絡船運航日数							
指標説明(式)		連絡船運航日数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
日	目標	363	363	100.0	340	93.7	336	98.8	
	実績	361	362	100.3	340	93.9			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

指標名1		利用客1名にかかるコスト							
指標説明(式)		(事業費+人件費)÷利用者数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	1,437	1,251	87.0	1,550	123.9	1,554	100.3	

指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	交通、通学等が困難である坪根地区と市街地を結ぶ連絡船は市民の交通手段として必要である。	5	4
	市民ニーズ	正確性、安全性が高い連絡船は地域に密着しており交通弱者である子供達の通学手段として必要不可欠である。		
有効性	成果目標(改善)達成度	少子化による通学者の減少等により利用客数は減少しているが、一方白龍城からの一般利用者の増という傾向にある。	3	4
	市民サービス	1年間を通じてほぼ毎日の時刻表どおりの定期的な運航がなされている。		
効率性	コストの節減	これ以上のコスト削減が運行の安全面に支障をきたしかねない。	3	3
	手段の最適性	坪根地域の閑散期(4~9月)の日曜日を運休し、船長の安全確保を図った。		

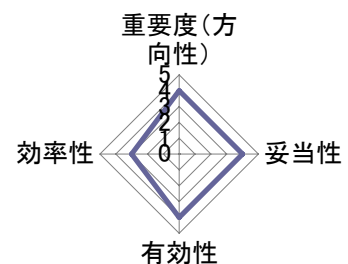
6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	コストの節減	原油等、物資高騰のため、現行の予算額で委託するには限界がある。

H19→H20予算反映額

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

度の実施	具体的な評価観点	内容
有効性	市民ニーズ	引き続き市民に愛される絡船運航の維持に努める。
H20→H21予算反映額		



(2) 20年度の実施方針

連絡船の存在を市民にアピールし、利用促進を呼びかける。

検討の有無	—
総合指標	21